明治六年

布告類編

八

訴訟警備

共

CZ
5
0122

031098-010-7

CZ-5-0122

布告類編

明治6年 自巻, 登之1-14 17

記録課

M7

BBC-0735

記録課編纂

明治六年

布類編

明治七年十一月新刊

布告類編卷之八目録 明治六年

○訴訟

一 府縣ノ理匭ヲ廢ス 一丁

一 訴答文例并附録 同 丁

一 外國ヨリ我政府ニ對スル詞訟ヲ外務省ノ所管トス 四十三丁

一 金穀貸借其他出訴期限規則 同 丁

一 勅奏官華族等民法裁判上ニ限リ直ニ本人ニ審問ス 四十七丁

一判任官ヲ裁判所ニ呼出手續　四十七丁
一願請建言ノ類郵便ニテ猥ニ大藏省ヘ出スヲ許サス　四十八丁
一郵便ニテ差出訴状ハ焼却スルヲ示ス　同丁
一訴訟入費償却假規則中改正　四十九丁
一同上増補　同丁
一司法省裁判所ヘ出訴手續　五十丁
一同府縣ノ答辨書并達書式　五十一丁
一司法省裁判所ノ裁判ニ不服ノ者本省ヘ控訴ヲ許ス　五十二丁
一越訴人處決ノ上本管ニ引渡ス　五十三丁
一裁判受証文ヲ廢シ言渡書ノ寫ヲ下付ス　五十四丁
一質地ヨリ起ル訴訟濟方　載于貸借
一婦離縁ヲ請フニ夫不堪時ハ出訴ヲ許ス　載于種族
一負債者身代限ニ遇フ節定約期限未満ノ貸主出訴方　載于貸借
一聽訟日々表　載于刑罰

○警備

一各種ノ名稱ヲ以テ番人ノ職ヲ奉スル類都テ番人ト改稱セシム　五十五丁

一各地方邏卒規則警保寮ニ稟候セシム　同丁

一假皇居御近火并非常ノ節號砲施行セシム　五十六丁

一同上各區ノ半鐘ヲ連打セシム　同丁

一雇外國人出張ノ節護衛處分（載于外人雇入）

編卷之八　明治六年

訴訟

第九十九號　六月十日

府縣ニ於テ是迄目安箱設置候處自今相廢候條此旨相達候事

但建言上書等ハ集議院并ニ各地方廳ヘ直ニ可差出候事

第二百四十七號　七月十七日

今般訴答文例并附錄別冊ノ通被相定候ニ付

来ル九月一日ヨリ原被告人共訴答文式都テ此例ニ照準可致此旨相達候事

訴答文例

第二巻　原告人ノ訴狀

第一章　原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

第一條　訴訟ヲ為サントスル原告人ハ其管轄ノ村町役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住管轄ノ村町役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書附ヲ取タル後訴狀ヲ作ル可シ若シ住所氏名身分明瞭ナラハ其書附ヲ取ルニ及ハス

住所ト ハ某府縣管下某國某郡某町村住居又ハ寄留ト記スノ類

身分ト ハ宿名役名華族士族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類

若シ一戸ノ本主ニ非スシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某ト記ス可シ

第二條　原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路

隔絶ナラハ原告人我管轄ノ町村役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書附ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但シ役場文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フ可シ

第一章 代書人ヲ用フル事

第三條 原告人訴状ヲ作ルハ必ス代書人ヲ撰ミ代書セシメ自ラ書スルヿヲ得ス但シ從前ノ差添人ヲ廢シ之ニ代ルニ代書人ヲ以テス

第四條 訴訟中訴状ニ關係スルノ事件ニ付被告人ト往復スルノ文書モ亦代書人ヲシテ書セシメ但代書人ノ氏名ヲ記入セシム可シ若シ代書人ヲ経サル者ハ訴訟ノ證ト為スヿヲ得ス

第五條 代書人疾病事故アリテ之ヲ改撰スル時ハ即日頼主ヨリ裁判所ニ届ケ且ツ相手方ニ報告ス可シ其裁判所ニ届ケズ被告

人ニ報告セサル以前ハ假令代書スルモ代書人ト看做スヿヲ得ス

第三章　訴狀ノ定則ノ事

第六條　訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フヿヲ可シ

第一　訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト為スヿヲ可キ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルヿニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルヿヲ得ス

第二　一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書シ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ（附錄第一號ノ見合ス可シ）

第三　訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四　訴状ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認ノ正副二通ヲ具ス可シ

第五　被告人ノ住所呼出ヲ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里数ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載ス可シ若シ八里以内ナル時ハ其里数ヲ記載スルニ及ハス

第四章　訴状ノ書式ノ事

第七條　貸附米金等淹滞ノ訴状

貸附米金等淹滞ノ訴状ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ過キテ返済セサル事情ヲ書ス可シ（附録第二号ヲ見合ス可シ）

田畠ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損

料金又ハ諸種ノ立替金又ハ召抱人等ノ引
負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家
等ヲ受取ラントスルノ訴状モ亦本條ニ照
ス可シ

第八條　預ケ米金淹滞ノ訴状

預ケ米金淹滞ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ米
金ノ員數ト預ケタル年月日トヲ標記シ次
ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返
済セサル事情ヲ書ス可シ
借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持參
金又ハ實家若クハ親族等ノ仕送リ金ヲ受
取ントスルノ訴状モ亦本條ニ照ス可シ

第九條　賣掛代金淹滞ノ訴状

賣掛代金淹滞ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ金
高ヲ標記シ次ニ其帳面総計ノ高ヲ出シ之

ニ被告人ノ證印アルヿヲ記入シ次ニ違約
淹滞シタル事情ヲ書ス可シ（附録第三号ヲ見合ス可シ）
賣掛代金又ハ旅籠代金賄代金等通帳附込
帳等ニ被告人ノ證印ナキ時ハ原告人ノ證
據ト為スヿヲ得ス

第十條　手附金賣買違約ノ訴状

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ
残金ヲ渡サヽル時ニ至リ被告人違約
シテ諸物品ヲ渡サヽルノ訴状モ住所氏名

ノ次ニ買付ケ物品ノ総高次ニ手附金ヲ
渡シタル年月及ヒ残金ヲ渡シ物品ヲ受
取ヘキ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約
定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書
ス可シ（附録第四号ヲ見合ス可シ）
諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ
至リ残金ヲ受取ル可キ時ニ被告人違約シ
テ残金ヲ渡サヽルノ訴状モ住所氏名ノ次
ニ手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ残金ヲ

受取リ物品ヲ渡ス可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（附錄第五号ヲ見合ス可シ）

第十一條　受負料淹滯ノ訴狀

諸職業受負淹滯ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタル金數トヲ未タ受取ラサル金數トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

第十二條　奉公人違約ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未満内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未満内ニ其家ヲ出テ還ラ

サル者ヲ取戻サントスルノ訴状モ亦本條ニ照ス可シ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米金滞ノ訴状モ亦本條ニ照ス可シ

第十三條　専賣免許ヲ犯シタルノ訴状

専賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ摸倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ専賣免許ヲ得タル年月日ト免許ヲ受タル役所ノ名ト専賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ證印又ハ證書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ

諸商工専賣ノ免許ナクシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ炊アルヲ以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴ルヲ得ス

第十四條　商社中取引ノ訴状

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ニテ乗合商賣

ト稱スル者モ諸書確實ナル者ハ之ヲ訴ルヿヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ模樣ニ付各種ノ本條ニ照ス可シ

先ニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨クルヿアルヿヲ以テ之ヲ訴ルヿヲ得ス

但シ專賣免許ヲ犯スヿヲ得サルノ法ト相抵觸スルヿ無ル可シ第十三條ヲ見合ス可シ

第十五條　夫妻離別ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ掲記シ次ニ其戸長役場ヘ届置キタル戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離婚ヲ為ス可キ原由ヲ書ス可シ

原告人夫ハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母在ラサレハ尊族ノ親尊族ノ親在ラサレハ同等ノ親同等ノ親在ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ為ス可シ

（附録第六号見合ス可シ）

原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴ヲ可シ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキ時ハ自ラ訴ヲ事ヲ得可シ

第十六條　養子女ヨリ離別スル訴状

養子女ヲ離別スルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女ト離別シタル年月日ヲ摘記シ次ニ原被両方ノ戸籍人別ノ寫載シ次ニ離別ス可キ原由ヲ書シ原告人親族在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上奥書連印ヲ為ス可シ

本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴状モ本條ニ照ス可シ若シ本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴ルヿヲ得ヘシ

養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請ノ訴ヲ為スヿヲ得ス

第十七條　家督相續ノ訴状

家督相續ヲ爭フ訴状モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原

被告人生年トヲ標記シ次ニ其原被雙方ノ戸籍人別ト譲状遺状等ノ證書アレハ其全文ヲ寫載シ次ニ自己相續ス可キ條理ト被告人相續ス可キ條理トヲ書ス可シ（附録第六號ヲ見合ス可シ）

第十八條　田畠山林等賣買違約ノ訴状

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスル人ノ訴状及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスル人ノ訴状モ第十條ノ第一項ニ照ス可シ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價受取ントスル人ノ訴状モ第十條ノ第二項ニ照ス可シ

第十九條　境界ヲ爭フノ訴状

國郡郷村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ訴状モ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書ス可シ舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト為シ目録ヲ附シ各番號ヲ朱記ス可シ

繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ爭フ所ノ區域ハ著色ヲ用ヒス其他ノ經界ハ別色ヲ用ユ可シ（附錄第七號ヲ見合ス可シ）

第二十條　控告ノ訴狀

原被告人預審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等裁判所ニ控告セントスル訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣ヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト為シ訴出可シ但シ控告人ノ住所ト控告ヲ為ス裁判所トノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受タル日ヨリ三ヶ月ノ期限ヲ過ル時ハ控告ヲ為ス

ヲ得ス

預審又ハ終審ノ裁判以前ノ場合ニ於テ其裁判役ノ曲庇壓制等アルヲ以テ原被告人之ヲ上等ノ裁判所ニ申告スル者モ亦本條ニ照ス可シ

第五章　一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止ル可キ事

第二十一條　原被告人共人員多少ニ拘ラス訴狀ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ限ル可シ又原告人一名ニ付テ同時ニ數件ヲ訴フルモ

訴狀ヲ各冊ニ分ル可シ

第六章　一冊ノ訴狀ニシテ數件以上ヲ合スヲ得ル事

第二十二條　貸借ニ事以上ニシテ原被告人共別人ニ非ス一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得可シ

第七章　原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條　債主連名ノ證文ヲ以テ米金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フヘシ若シ

債主連名三人ナルヲ一人ニシテ訴ル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ證書ヲ以テ訴フ可シ

附録第八號ヲ見合ス可シ

第二十四條　債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章　連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條　負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條　負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戸長ヨリ承認ト附載スヘシ

附録第九號ヲ見合ス可シ

第二十七條　負債主連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願モ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可シ

第九章　讓證文ヲ以テ訴ル事

第二十八條　甲ヨリ乙ニ貸シ又ハ預ケタル米金ヲ甲ヨリ丙ニ讓リタルニ乙ヨリ丙ニ返濟セスシテ丙ヨリ乙ヲ相手取リ其米金ヲ受取ントスル訴狀モ住所氏名ノ次ニ甲ヨリ丙ニ讓リタル證文ヲ寫載シ若シ甲ヨリ丙ニ讓リタル證文無レハ甲ト乙ノ關係ニシテ乙ト丙トノ關係ナシト故ニ丙ヨリ乙ヲ相手取ルヿヲ得ス附錄第十號ヲ見合ス可シ

第二十九條　父祖父母等ノ貸附タル米金等ハ其家ノ相續ヲ為シタル者ニ非レハ其子孫ニシテ貸附證文ヲ所持スト雖モ父母祖父母等ノ讓受シタル證書ナキ時ハ之ヲ訴ルヿヲ得ス

第十章　代言人ノ事

第三十條　原告人ノ情願ニ因テ代言人ヲシテ代言セシムルヿヲ許ス代言人ヲ用フル

者ハ其訴狀ノ奥書ニ代言人ニ依頼シタル旨ヲ記載シテ原告人及ヒ代言人ノ連印ヲ為ス可シ若シ連印ナケレハ代言セシムル

第三十一條　原告人代言人ヲシテ代言セシムル時訟庭ニ同席スル事ハ其情願ニ任カス

第三十二條　訴訟ニ關係スル書類ハ代言人又ハ保證人ノ類ト雖原告人ノ證ト為ル可キ者ハ原告人ノ撰ヒタル代書人ヲシテ代書セシメ其代書人ノ氏名ヲ記入セシム可シ原告人ノ自書ヲ用フルヿヲ得ス

書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ代書人ヲシテ代書セシム可カラス若シ本人自署スルヿ能ハサレハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

訴訟中原告人又ハ代言人ノ疾病事故ニ因テ假リノ代言人ヲ出ス時ハ原告人又ハ代

言人ヨリ假リノ代言人ニ依頼スルノ證書ヲ出ス可シ若シ證書ナケレハ假リノ代言人ト為スヿヲ許サヽ不（附録第十二號ヲ見合ス可シ）

第二卷　被告人ノ答書

第一章　答書ノ定則ノ事

第三十三條　答書ヲ作レハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一　被告人裁判所ノ呼出状ト共ニ原告人ノ訴状ヲ受取ル時原告人ノ陳述スル所條理アラ速ニ熟議シ原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フ事ヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲシテ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシムヿヲ裁判所ニ呈ス可シ（第四十七條及四十八條ヲ見合ス可シ）

第二　源告人ノ述ル所非理不實ニシテ辨解ス可キ確證アラハ其書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書ス可シ

第三　答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住

所身分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アル可シ附錄第十三号ヲ見合スヘシ

第四 答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ若シ本人自署スルヿ能サル時ハ其氏名ノ肩ニ記スヘシ

第五 答書ハ十六行ニテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具スヘシ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三十四條 被告人自ラ答書ヲ書スルヲ許サス必ス代書人ヲシテ代書セシム可シ其代書人ヲ撰ムヘキ時ハ即日裁判所ニ屆ケ且原告人ニ報告スヘシ其他代書人ヲ用フル方法ハ第三條第四條第五條第六條ニ照ス可シ

第三章 代言人ノ事

第三十五條 被告人ノ代言人ヲ用ルモ亦其情願ニ任ス然レトモ必ス本人自ラ同伴シテ

訟庭ニ出席シ其結局ハ本人ヨリ決答ヲ為スヘキ

第三十六條　被告人代言人ヲ出ス時ハ答書ノ奥書及ヒ連印等ノ方法第三十條ニ照ス可シ

第三十七條　答書ニ關係スルノ書類ハ代言人又ハ保證人ノ類ニ雖モ被告人ノ證ト為ルヘキ者ハ被告人ノ撰ヒタル代書人ヲシテ代書セシムヘシ但シ代書人ノ氏名ヲ記入セシム可シ被告人ハ自書ヲ用フルヲ得ス

書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ代書人ニテ代書セシムヘカラス若シ本人自署スル能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四章　原告人ノ返リ證文ヲ所有シタルニ答書ノ事

第三十八條　負債主米金等ヲ返濟スルニ債主原ノ證書ヲ還付セサルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文

返證文ハ債主ヨリ原ノ證書ヲ還付セスシテ其米金受取ノ證書ヲ交付スルヲ云フ

次ニ原告人ニ重ノ催促ヲ為シタル旨ヲ書スヲ可シ

第三十九條　原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金ヲ受取リタル確證ノ文字ナク他ノ憑據トスヲ可キ證跡ヤ時米金ヲ受取タルノミノ證書ヲ以テ返リ證文ト看做スヲ得ス

第五章　原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破

第四十條　借用シタル米金等ヲ返濟スヲ可キ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟議シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ為シタル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札トハ返濟アルヲ延期ノ證書ヲ云フ

答書ノ事

ヲ記シ次ニ其證書全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルヲ書スヲ可シ

第四十一條　負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破

リタル事件ヨリ起リ債主本證文ニ據リ訴出タル原由アル時ハ負債主ナル者已レヨリ約ヲ破リタル返延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證トナスヿ得ス

第六章　原告人證書ヲ偽造シタル答書

第四十二條　被告人ノ證書ヲ原告人偽造シタル答書其造ヲ證スル為ニ管轄町村役場ニ屆ケ置タル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル者ヲ可シ

第七章　経界ヲ争フ答書ノ事

第四十三條　國郡村山川田宅等ノ分界ヲ争フ答書ハ第十九條ヲ照ス可シ方法

第八章　既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ接續スル事

第四十四條　負債主米金ヲ返済ス可キ期限ヲ過キテ返済セサルヲ訴ヘラレタルニ別

ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ其受取可キ期限モ亦タ過キ米タ訴ヘスト雖ト雙方均シク返済期ヲ破リタルヲ以テ両件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ為サントスル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ル可キ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差引計算ヲ為スノ旨ヲ書ス可シ

第四十五條　負主甲其債主乙某ヨリ借用シタル米金返済スヘキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタル答ルニ當リ甲其其借用シタル米金ハ更ニ其ニ貸附ケ其期限ヲ過キ返済セサルヲ以テ既ニ訴ヘラレタル乙其ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ接續シテ丙某ノ返済ヲ為ス可キ米金ヲ以テ乙某ニ返済センヿヲ答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ丙ニ非ス丙甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テナリ

第九章　對決前熟議解訟ヲ為シタル答書ノ事

第四十六條　被告人訴狀ニ對シ辨解スルヿ能ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ為シタル答書ハ原告人承諾ノ奥書連印ヲ為サシム可シ（附錄第十四号ヲ見合ス可シ）

第四十七條　前條ノ場合ニテ貸借淹滯ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ償ノ既濟又ハ未濟ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前條ニ照スヘシ各種違約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照ス可シ

第十章　對決前返濟延期ノ約定ヲ為シタル答書ノ事

第四十八條　原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返濟スルノ延期ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セン

トスル者ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ奥書連印ヲ為サシム可シ（附録第十五号ヲ見合ス可シ）

第十一章　對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償ノ延期ヲ約シテ解訟ヲ為シタル答書ノ事

第四十九條　原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セン[illegible]ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ奥書連印ヲ為サシム可シ（附録第十六号ヲ見合ス可シ）

第十二章　對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償延期ノ約定ヲ為シタル答書ノ事

第五十條　原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セン[illegible]ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審

判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返済スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ奥書連印ヲ為サシムベシ附録第十七号ヲ見合ス可シ

訴答文例附録

第一號

訴状表紙ノ式 美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ユ可シ

年月日

某訴状

住所
身分
氏名

某訴状ト ハ假令ハ賃金ノ滞ヲ訴ルハ貸金催促ノ訴状ト記シ流質地ノ争訟ハ流質地引渡催促ノ訴状ト記スノ類

訴状ノ式

原告人 住所 身分 氏名

第二號

其訴

被告人　住所身分氏名

標記云々

古原告人氏名申上候私儀云々

年月日　氏名印

其裁判所長氏名　住所身分氏名印

儀書人

貸金催促ノ訴狀

貸金催促ノ訴

原告人　住所身分氏名

被告人　所身分氏名

一元金何圓　年月日限

一利金何圓　一年又ハ一月幾分ノ利

合何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云々

貸主　名當

右原告人氏名申候云々

年月日

某裁判所長氏名

書人　住所身分　氏名印

借主氏名

證人氏名

第三號

賣掛代金淹滯ノ訴狀

賣掛代金淹滯ノ訴

原告人　住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

一金何圓

右賣掛帳ノ總計高ニ御坐候

但帳面ニ被告人ノ證印有之候

若賣掛帳ニ非スシテ證文ナレハ其

證文全文ノ寫ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云々

年月日

代書人　住所身分　氏名印

某裁判所長　氏名印

第四號

買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴

原告人　住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

一米百石　年月日買取約定濟受取ル可キ石高

代金何圓　一石ニ付何圓替

内何圓　年月日手附金トシテ渡濟

残何圓　年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定

右約定證書ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

代書人　住所身分　氏名印

氏名印

某裁判所長　氏名

第五號

賣附生糸代金引渡違約ノ訴狀

賣附生糸代金引渡違約ノ訴

原告人　身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

一金何圓　年月日限生糸引替ニテ受取ル可キ殘金高

元金何圓　年月日生糸何斤賣附約定ノ金高

內何圓　年月日手附金トシテ受取濟　但何斤ニ付何圓宛

右約定證書ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

某裁判所長　氏名

代書人　住所身分　氏名印

氏名印

第六號

妻離別ノ訴狀

妻離別ノ訴

原告人　住所　身分　氏名

被告人　住所　身分　氏名

夫　氏名　當何歳

妻　氏名　當何歳　年月日　娶ル

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍

人別帳ノ寫左ノ如シ

人別帳云々

右源告人氏名申上候云々

年月日

氏名印

前書申上候處相違無御坐候

年月日

氏名印

原告人ノ祖父母父母等　住所　身分　氏名印

某裁判所長　氏名印

第七號

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

年月日ノ原圖何枚ノ一

年月日寫之

原告何村

淺紅色

原告人　住所身分　氏名印

第八號

原告人三人以上ナルヲ一人ニ任スル訴狀

某ノ訴

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

原告人　住所身分　氏名印

被告人　住所身分　氏名印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願申上

代書人　住所身分　氏名印

第二御坐候處病氣云々ニテ難罷出ニ付

何ノ誰ヘ総代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヘ

ヨリ申上候事柄并ニ御受仕候事柄共

後日ニ至リ私共ヨリ異議申上間敷候

為後證與印仕候

年月日

住所身分　氏名印

住所身分　氏名印

住所身分　氏名印

代書人　住所身分　氏名印

某裁判所長　氏名

第九號

被告人連名中脫走又ハ病死人アルノ訴狀

其ノ訴

原告人　住所身分　民名

被告人　住所身分　民名

被告人　元住所身分　民名

右何ノ誰ハ年月日脫走致シ候段何町村役人ヨリ承知仕候

被告人　住所身分　民名

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段何町村役人ヨリ承知仕候

右原告人民名申上候云々

年月日

其裁判所長民名　代書人　住所身分　民名印

第十號

讓證文ヲ以テ催促スル訴狀

某ノ訴

一元金何圓

一利金何圓

合何圓

原告人　住所身分氏名

被告人　住所身分氏名

右證文ノ寫左ノ如シ

證書云々

右讓證文ノ寫左ノ如シ

證書云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

代書人　住所身分氏名印

氏名印

第十一號

某裁判所長氏名

代言人ヲ頼ム訴狀

某ノ訴

原告代言人　住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

標記云々

右原告代言人氏名申上候云々

年月日　氏名印

前書ノ儀私ヨリ御願可申上候　代書人　住所身分　氏名印

候處何々ノ旨趣ニ付何ノ誰ヘ相頼候然ルニ何ノ誰ヘ申上候事柄ニ付ヨリ異議申上間敷候為後證與印仕候

年月日　原告人　住所身分　氏名印

某裁判所長　氏名

第十二號

一時假リノ代言人ヲ出ス證書

右ハ何々ノ儀私ヨリ訴出候付罷出委曲申上度奉存候處病氣ニ付今日限何ノ誰ヘ代言相頼候若御尋ノ儀同人ニテ御對申上兼候廉有之候ハヽ私快氣次第罷出可申上候

年月日

當日代言人　住所　身分　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

裁判所長　氏名

第十三號

答書表紙ノ式

用紙寸法第一号訴狀ノ法ニ準ス

年月日

某ノ答書

住所　身分　氏名

答書ノ式

某ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御伏拝見仕御答申上候

私儀云々

証據ノ書類アラハ其写ヲ記載スヘシ

右之通御坐候

年月日

被告人　住所　身分　氏名

第十四號

對決前熟議解訟ノ答書

某裁判所長　氏名

代書人　住所　身分　氏名　印

某ノ訴濟口ノ答

被告人　住所　身分　氏名

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付
今何日御呼出ノ御状拝見仕原告人ヘ
熟談濟方仕候趣申上候
私儀云々
年月日　氏名印
代書人　住所身分　氏名印

前書被告人何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟
方仕候付此上對決ノ御裁断不奉願候
年月日　原告人　住所身分　氏名印

某裁判所長　氏名　代書人　住所身分　氏名印

第十五號

對決前返濟延期ノ約定ヲ為シタル答書

被告人　住所身分　氏名

某ノ訴濟口日延ノ答
右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付

今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ヘ熟談ノ上濟方日延約定仕候段左ノ通御坐候

私儀云々

年月日

代書人　住所身分　氏名印

氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上濟方日延約定仕候付来何年何月何日迄御裁斷御猶豫奉願候

年月日

原告人　住所身分　氏名印

代書人　住所身分　氏名印

其裁判所長　氏名

第十六號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

某ノ訴何ノ誰ヨリ日延代償ニテ濟ロノ答

被告人　住所身分　氏名

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御状拝見仕原告人ヘ熟談ノ上親族朋友中何ノ誰ヨリ日延代償約定仕候段左ノ通御坐候

私儀云々

年月日

氏名印

代書人 住所身分 氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共白リ日延代償ノ約定仕候段相違無御坐候

年月日

代償人 住所身分 氏名印

代書人 住所身分 氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共承諾仕候付此上對決ノ御裁断不奉願候

年月日

原告人 住所身分 氏名印

代書人 住所身分 氏名印

某裁判所長 氏名

第十七號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

某ノ訴何ノ誰代償濟方日延ノ答

右住所身分何ノ誰儀訴出候付今

何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ヘ熟談

ノ上親族朋友中何誰ヲ以代償濟方日延ノ

約定候段左ノ通御坐候

私儀云々

住所身分氏名

被告人

年月日

代書人 住所身分氏名印

前書被告人何ノ誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御坐候

代續人 住所身分氏名印

年月日

代書人 住所身分氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上何ノ誰ヨリ代償濟方日延約定仕候付來何年何月何日迄御裁判御猶豫奉願候

年月日

原告人　住所身分氏名印

代書人　住所身分氏名印

某裁判所長氏名

第二百八十九號　八月八日　省使府縣

外國人民ヨリ我國人民ニ對スルノ訴訟ハ勿

論司法省ニ於テ裁判可致候ヘ共外國政府并外國人民ヨリ我國政府ニ對スルノ詞訟ハ外務省ニ於テ取調候條以來右等政府ヘ對シ候事件ハ外務省ヘ引渡可申且現今各裁判所及ヒ各縣廳ニ於テ取扱居候分其筋ニ渉リ候者ハ書類一切外務省ヘ引渡可申候此旨相達候事

第三百六十二號十一月五日

金穀貸借ヲ始メトシ物品賣買ヨリ其外種々ノ取引等ニ至ルマテ雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限ヲ定メ條約ヲ結ヒ置キタル二十方ノ者其條約ヲ破タル時ハ早速裁判所ヘ出訴イタシ不苦候處延期ノ勘辨ヲ加ヘ出訴ヲ見合候者モ有之是亦タ慈愛ノ人情ニテ尤ノ事ニ付早速出訴イタシ候トモ又ハ勘辨ヲ加ヘ候トモ人民ノ自由ニ任セ出訴期限ノ法則不相定候處右延期勘辨中數多ノ歳月ヲ過去リ出訴致シ候時ハ貸方借方受人証人ノ内死亡又

ハ轉住又ハ失踪等ノ者モ有之事理曖昧ニ立至リ裁判上不都合不少候ニ付訴訟ノ事拘ニ因リ夫々出訴ノ期限ヲ定候條来明治七年一月一日ヨリ後ニ結ヒタル條約期限ニテ右出訴期限ヲ過去リ出訴ヲ取消シタル者ト看做シ受取ルヘキ者ハ自分條約ヲ以ヘキ權利ヲ失ヒ引渡スヘキ義務ヲ免レ候事ハ相定メ候ニ付若シ出訴致シ候トモ取上不致候此旨布告候事

出訴期限規則

第一條

一學藝ノ授業料
一運送賃
一手附金
一職人ノ手間代金
一受負金
一男女藝者ノ揚代金
右ハ六ヶ月限

一旅籠料
一飲食料
一商人互ノ賣掛金
一日雇人ノ給料
一芝居等ノ木戸錢又ハ桟敷錢

第二條

一醫師ノ診診及ヒ藥料

一授業師ヨリ門第ニ給與シタル飲食料

一商人ヨリ商人ニ非サル者ヘノ賣掛代金

一一ケ年期マテノ奉公人給料

右ハ一ケ年限

第三條

一期限ヲ定メタル貸附米金及ヒ利息アレハ其利息

一期限ヲ定メタル預米金及ヒ利息アレハ其利息

一家屋及ヒ土地ノ借賃　一小作米金

一證據金　一敷金

一物品ノ借賃及ヒ損料

一七ケ年期マテノ奉公人給料　養育料

一期限ナキ年金及ヒ一生涯ノ年金

右ハ五ケ年限

第四條

一條約証書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ候故何時出訴致シ候テモ苦カラ

サル事

第五條

一從前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做スヘシ又從前取結ヒタル條約ニテ其期限ノ明治七年一月一日後ニ及フ事件ハ條約期限切レタル翌日ヨリ第一條第二條第三條ノ種類ニ從ヒ出訴ノ期限ヲ起算致スヘキ事

但明治五年壬申第三百號布告第三條ニ定メタル規則ハ格別ナリトス

第四百五號 十二月七日

勅奏任官及ヒ華族其外有位ノ輩訴訟關係ノ節家令執事等ニテ相辨ス可キ分ハ格別ナリト雖モ若シ本人呼出審問及ハス候テハ事實明瞭ナラサル時ハ民法裁判上ニ限リ奏問ニ及ハス直ニ本人呼出審問及フ可ク此旨布告

候事

但勅奏任官ノ者呼出ヲ受ケタル時ハ其旨銘々ヨリ其奉職ノ官廳ヘ相届ク可キ事

司法省八十九號 六月八日

裁判上ニ於テ諸官員ノ内相手取ラレ且引合等有之呼出ニ及候節判任以下ニテモ是迄其所轄省ヲ経テ本人ヨリ相達来候右ハ全ク一身ノ私事ニ係リ候儀ヲ一々其省ヲ経由致候ヲハ諸事淹滞ハ不及申自然種々ノ不都合ヲ生シ候ニ付以来裁判所呼出ノ儀ハ判任以下ハ直ニ之ヲ達シ其所轄省ヘハ本人ヨリ届出候様可致此段相達候事

大蔵省百三十二號 九月十九日

府縣

府縣管下人民ヨリ願請建言ノ類郵便ヲ以直ニ當省ヘ宛差出候儀往々有之事物ハ大小軽重ヲ不問其地方ノ管廳ヘ差出處分ヲ可請筋ノ處無其儀不都合ノ事ニ候自然管廳ニ於テ壅閉スルカ或ハ處分ニ服セサル等ノ類ハ直

ニ差出不苦儀ニ候ヘ共必管廳ノ添翰ヲ以可
差出筈若添翰三日ヲ限不相渡儀モ有之候ハ
、其旨申添差出不苦候此旨布達候事

但本文布達ノ旨ニ違フ書類ハ以来可令燒
棄事

司法省六十九號 四月廿八日

爾来郵便等ヲ以テ訴狀差出候者往々有之右
ハ躰裁ニ於テモ不都合ニ渉リ實際ニ於テモ
裁判難相成候ニ付以来右等ノ書類差出候節
ハ一切不取上其時ヲ燒捨候條此旨相達候事

同省六號 一月廿三日

先般相達候訴訟入費償却假規則ノ條中第二
條第四條ノ但書ニ他所ヨリ罷出ト有之候處
八里以外ノ地ヨリ罷出ト改正致候間此段更
ニ相達候也

同省八十四號 五月三十一日

當省壬申第三十一號訴訟入費償却假規則中
ヘ左ノ通致增補候事

一測量繪圖認料

長三百間迄ニテ盡ル時ハ

百間ニ付一尺ノ割　西ノ内一枚ニ付十錢

長六百間迄

百間ニ付五寸ノ割　同十二錢

長千二百間迄

百間ニ付三寸ノ割　同十四錢

長六百間迄

百間ニ付二寸ノ割　同十七錢

長一万二千間迄

百間ニ付一寸ノ割　同二十錢

長一万二千間以上

百間ニ付五分ノ割　同二十四錢

一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡ノ見積ヲ以テ簡便ニ圖引可致事

但西ノ内一枚ニ付十錢

右ノ通可相心得事

司法省二十三號　二月廿五日

當省壬申第四十六號布達ニ付テハ地方官及ヒ其戸長等ニテ各人民ヨリ願伺届等ニ付之ヲ擁閉スルカ又ハ地方裁判所及ヒ地方官ハ裁判ニ服セサル事等ニ付各人民ヨリ司法省裁判所ヘ訴訟致度旨申立ル者アルトキハ其地方裁判所又ハ地方官ヨリ添輪ヲ渡スヘシ若シ地方裁判所又ハ地方官ニテ三日ヲ限リ添輪ヲ渡サルトキハ直ニ司法省裁判所ヘ訴訟若シカラサル事

司法省五十六號　四月十五日

各府縣ニ對シ各人民ヨリ裁判所ニ訴出候節各府縣ノ答辯書幷其裁判ニ付各府縣ヘ達書式別紙ノ通相定候條此段相達候事

答辯書式

右ノ者儀當府縣廳何々ノ旨其御裁判所ヘ訴出

當府縣下

何國何郡何村町

身分

氏名

候儀ニ付御尋ノ趣左ノ通ニ有之候

此儀云々ノ譯ニ付何々イタシ候儀ニ有之候

右之通御答申進也

年號月日　　某府縣參事氏名印

某府知事
某縣令　氏名印

裁判達書式

某裁判所御中

某府縣　又ハ

某府縣官名氏名

某府縣管下何國何郡何村町何ノ誰何々ノ儀ニ付

某府縣ニ於テ何々ノ取計有之候處何ノ誰承服

不致當裁判所ヘ訴訟及ヒ候付審理候處原告

被告ノ申立正理ニ付何々ト及裁判候條此旨相

達候也

年號月日　　某裁判所印

司法省百九十八號　十二月十五日　　各裁判所

府縣

壬申第四十六號ヲ以テ各裁判所并ニ各地方ノ裁判ニ服セサル者ハ司法省裁判所ヘ訴訟苦シカラサル旨及布達置候處司法省裁判所ノ裁判ニ服セサル者ハ他ニ控訴ノ道無之ニ付今後司法省ニ於テ臨時局ヲ開キ覆審ニ及ヒ候間司法省裁判所ノ裁判ニ服セサル者ハ司法省ヘ訴訟不苦尤モ司法省裁判所ハ大判事ノ名宛ニテ差出司法省ハ司法卿ノ名宛ニテ差出スヲ可ク候條此旨布達候事

十月廿三日司法省第三号ヲ以テ布達

但各裁判所并各地方官ノ裁判ニ服セザル者ハ司法省裁判所ヘ上告スルニ止マリ司法省裁判所ニ於テ裁判ニ服セザル者ハ司法省臨時裁判所ヘ上告スルニ止マリ候儀ト可相心得候事

司法省百十一號　七月十日

從来越訴ノ者其本管ノ糺彈中ニ係ル者ハ聽訟斷獄ノ事件ヲ不論二罪俱發ノ例ニ依リ犯人口書ノミヲ取本管ニ遞送シ本罪所決ノ時

一ノ重キヲ以處シ来候處右ハ畢竟本管糺彈ヲ規避不服ノ所ヨリ越訴ニ及候儀ニテ二罪俱發ノ限ニ非ル者ニ候ヘハ以来右様ノ者ハ所決ノ上本管ヘ可引渡候條此旨相達候事

同省百八十五號 十一月廿七日

各裁判所
諸縣

從来聽訟上裁判申渡ノ儀ハ請証文爲差出候

處今般右受証文相廢シ別紙ノ通改正候條此
旨可相心得候事

第一條

各裁判所及ヒ地方官ニテ裁判ヲ為ストキハ從
前ノ請証文ヲ申付ル法ヲ廢シ然シテ裁判言
渡書ノ寫ニ裁判廳ノ印ヲ押シ之ヲ原告被告
ニ下付シ原告被告ヲシテ其裁判言渡書ノ寫
ヲ受取タル証書ヲ出サシムヘシ
但地所境界論ニテ測量繪圖ノ裏ニ裁判ノ
旨趣ヲ記載シ原被告ニ下付シタルトキハ原
告被告ヲシテ裁判裏書ノ繪圖ヲ受取タル
証書ヲ出サシムヘシ

第二條

各裁判所及ヒ地方官ヨリ下付シタル裁判言
渡書ノ寫又ハ裏書ノ繪圖ヲ受取ラス不服ヲ
唱ヘ上告ヲ願フトキハ其裁判言渡書ノ寫及ヒ
訴訟ニ付テノ書類ヲ添ヘ不服ノ者ヲ司法省
裁判所ヘ差出ヘシ

○警備

第二百二十五號 六月廿四日 府縣

從來各地方ニ於テ邏卒又ハ取締組或ハ捕亡吏等ノ名稱ヲ以テ其實番人ノ職ヲ奉シ居候類ハ都テ番人ト改稱可致旨相達候事

司法省十九號 二月十八日

各地方ニ於テ是迄各自ノ規則ヲ立邏卒ヲ置取締致シ候向モ有之候處右規則方法等警保察ノ照知ヲ不經候テハ不都合モ有之候間既ニ立テ置キ有之候分又ハ新タニ立テ置ントスル分ヲ論セス其規則方法共警保察ヘ可伺出候事

第百六十五號 五月十五日

赤坂假皇居御近火并非常ノ節ハ壬申第八十三號布告ノ通三發五發ノ號砲施行候條此旨相達候事

第百九十三號 六月八日

赤坂假皇居御近火并非常ノ節號砲相聞ヘ次第各區火ノ見ニ於テ御近火ハ半鐘四點ツヽ、非常ハ五點ツヽ、連々打鳴シ候條此旨可相心得事

布告類編卷之八終